

「平和の絆」

エフェソの信徒への手紙 4:1-6
ヨハネによる福音書 15:16-17

2023年9月10日
野村 友美 師

<招かれた者の群れ>

今日はこの礼拝の後、敬老祝福会を予定しています。80歳を超えた方たちがこの教会におられることをみんなで喜び祝って、神様がそれぞれの健康と信仰をこれからも祝福してくださるようにと祈るひと時です。

「人生いろいろ」と言いますが、どういう生き方を選んだとしても、生きるって本当に大変ですよね。他の誰かと比べれば楽だ、幸せだ、恵まれていると思えても、悩みや辛さがまったくない人生を送っている人は、誰もいません。

それぞれの悩み、それぞれの悲しみや苦勞を背負って、私たちはそれぞれに与えられた命を生きています。

それぞれに大変な人生に、でも誰も一人ぼっちで放り出されているんじゃない、と聖書は私たちに伝えているんです。

泣いたり笑ったり、頑張ったりへこんだりしながら歩いていく一人一人の人生の旅路を、神様が一緒に歩いていてくださる。一人一人の命を慈しんで、1日1日生きるために必要なものを与えてくださっている神様がおられる。そのことを思い起こして、長い旅路を守ってくださった神様に感謝して、これからも守ってくださいと祈りながら、

今年も敬老祝福会をお祝いしたいと思います。

それにしても、教会というのはなかなか不思議なところですよ。ご高齢の方も、まあまあそれなりの方も、若い方も、小さな子どもたちも、同じ時間に、同じ場所に集まって、同じ神様に礼拝を献げています。みんなが同じように感じたり、同じことを考えたり、同じ意見や思想を持っているという訳ではないでしょう。年齢だけじゃなくて性別も、環境も、経験も、好みも、考え方も、みんなそれぞれに違います。長く教会に通っている方もいれば、今日たまたま来てみたという方もおられるでしょう。気があう人同士もいれば、何だかすれ違が多いな、という人同士もいらっしゃるかもしれません。

今、ここにこうしている私たちの共通点はたった一つ、「神様から招かれて、その招きに応じてここに集まってきた」ということです。

そうだな、と思われる方も、いや、私はちゃんと自分で考えて自分で決めて今日ここに来た、と思っておられる方も同じです。私を含めて、皆さんは今日、神様からここに集まって一緒に礼拝するようにと招かれた一人一人です。

そしてここに、教会という場所に招かれた私たちは、聖霊によって結び合わせられて、イエス様を頭にした一つの体として一緒に生きるようにも招かれています。

この招きについて、今日ご一緒にお読みしている聖書の言葉は 私たちに語りかけているんです。

<霊による一致>

神様から招かれたんだから、その招きにふさわしく歩みなさい。そう言って、このエフェソの信徒への手紙を書いたパウロは、彼の手紙を読む人たちがどんな生き方に招かれているのかを教えてください。

パウロの手紙を読む人たち、って誰でしょうか？
まずは、宛先になっているエフェソの教会の人たち。それから、同じ時代にこの手紙を回し読みしたはずの、他の教会の人たち。この手紙を、新約聖書の文書として受け継いできた教会の人たち。そして今こうして、礼拝の中で一緒に読んでいる私たちです。

今日の箇所の初めに、「主に結ばれて囚人となっているわたし」とパウロは自分のことを紹介しています。囚人って言われると、何だか不自由で辛そうなイメージで、ちょっとドキッとしますね。でも、あえて「主イエス・キリストの囚人」とパウロは名乗ります。逃げ出さないように、しっかりとイエス様に繋がれている人。語る言葉も行動も全部、イエス様に従うように命じられている人。自分の正義や価値観じゃなくて、イエス様の愛と正しさに繋がれている人。そういう「囚人」として、パウロは私たちに語りかけているんです。

場所を超えて、時代を超えて、民族や文化やありとあらゆる違いを超えてすべての人の救い主になられたイエス様の囚人として。

パウロもまた、場所も時代も民族も文化も、あらゆる違いを超えたすべての教会に向かって呼び

かけているんです。

「あなたたちはみんな、神様から招かれてそこにいるんだ」と。

パウロは異邦人、つまりユダヤ人ではない人たちにイエス様のことを伝えるために、あちこちに遣わされて行った人でした。だからきっと、それぞれの土地で、それぞれの国の人たちとのいろんな違いに誰よりも苦労したんじゃないかと思えます。同じ日本の、同じ県の同じ町内に住んでいさえ、時々お互いの違いに「何で？」とびっくりする時があるものです。文化の違い、価値観の違い、性格の違い、立場の違い。そして、そこからもたらされるお互いの「正しさ」の違い。

人と人との間に当たり前にあるこの違いを、自分たちの力で乗り越えるのがどんなに難しいか、パウロは身に沁みてよく知っていたんでしょう。

それでも、このどうしようもないそれぞれの違いをイエス様が乗り越えて、聖霊によって私たちを一つに結び合わせてくださる。そのこともまた、パウロは彼自身の経験を通して、はっきりと知らされていました。だから今日、パウロは確信を持って私たちに勧めているんです。

神様とあなたたちを、そしてあなたたちそれぞれの間を、イエス様が聖霊によって結び合せる場所。教会という場所に招かれた者として、その招きにふさわしく生きなさい。

誰のことも見下さないで、傲慢な気持ちを手放して、穏やかな心でお互いを尊重しなさい。

自分も相手も同じように神様から愛されて赦さ

れている人なんだから、その愛を思い起こして、お互いの違いを忍耐しなさい。そんな招かれた者としての勧めを、パウロはこう締めくくっています。

「平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。」

平和、と訳されている元の言葉は、ただ単に争いがない状態を指しているものではありません。

誰かが我慢して、諦めて、犠牲になって、無視されて成り立つような偽りの平和じゃなくて。

神様が私たちに与えてくださる平安、すべての人を大切になさる神様の愛と正しさがもたらす平和で、お互いに繋がれているように。そうパウロは言っているんです。

聖霊によって、もうあなたたちは一つに結ばれているんだから、あなたたちの間におられる聖霊を無視して、お互いを自分勝手に扱わないように、気をつけていなさい。そうパウロは戒めています。聖書が繰り返し語っているように、教会の頭はイエス様です。

教会はイエス様をリーダーとして、一人一人が聖霊に繋ぎ合わせられて一緒に働く共同体です。

年齢も性別も、環境も経験も、好みも考え方も価値観もそれぞれに違う私たちが、同じ一つの救い、イエス様の死と復活の出来事によって、神の国を生きる永遠の命という同じ一つの希望を受け取っています。

この希望を見つめて一緒に生きるために、そしてこの希望をすべての人に伝えて差し出すために、神様は私たち一人一人をこの教会という場所に招いておられるのです。

<平和の絆で結ばれた共同体>

招いている、招かれている、と繰り返し言われているこの「招き」という言葉には、役目を与えるために選んで呼び出す、という意味があります。それぞれが神様から「あなたにこの役目を任せたい」と選ばれて、呼び出されている。

そうパウロは、教会にいる一人一人に伝えているんです。私たちが自分で「ふさわしい」とか「ふさわしくない」とか思っても、それは全然関係ありません。イエス様が弟子たちの中から、ご自分と一緒に働く十二人の使徒をお選びになった時もそうでした。聖書に詳しい学者とか、みんなから尊敬される人格者とか、深い信仰や知識を持っている人とか、誰もが納得できるような人が選ばれた訳じゃありませんでした。湖で魚を獲っていた漁師だったり、嫌われ者の税金取り立て役人だったり、過激な政治的思想の持ち主だったり、怒りっぽかったり、疑い深かったり。

イエス様が選んだ使徒たちは、それぞれ本当に個性的です。しかも彼らは、イエス様がイスラエルの指導者たちに捕らえられた時、みんなイエス様を見捨てて逃げ出してしまいました。

それぞれに個性的で、弱さも欠点もいっぱい抱えていて、それでも彼らなりに一所懸命にイエス様

について来ていた、そんな使徒たちをイエス様は、失敗しようが裏切ろうが、変わらずに愛し抜かれました。

十字架で死なれて復活されたその後も、イエス様は彼らに聖霊を送って、イエス様の出来事の証人という役目をお任せになりました。十字架にかかる前の夜、最後の晩餐の席で、イエス様は使徒たちにこんなことを言っておられます。

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。

あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。

互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」（ヨハネ15:16-17）

イエス様の証人として、人々の間に出て行って、神様からの愛と救いを告げ知らせ、神の国の命の希望を世界中に広げるために。この役目のために、イエス様は使徒たちを一人一人お選びになって、彼らの働きに必要なものは何でも願えば与えられる、と約束されました。同じように、こうして教会に招かれている私たちも、イエス様の証人になるようにと選ばれて、呼び出された一人一人です。必要な助けは何でもわたしの名によって祈り求めなさい、とすべての教会がイエス様から語りかけられています。

そして使徒たちに命じられたように、イエス様は教会の頭として私たちにも「互いに愛し合いなさい」と命じておられます。

それぞれの違いや弱さや欠点を抱える私たちを、それでも聖霊によって一つに結び合わせて、同じ神の国の命の希望を抱かせてくださるお方。

私たちを招かれる神様は、パウロが今日の箇所の最後に宣言しているとおり「すべてのものの父」、この世界のすべてを形作って命を与えておられるただ一人の造り主です。

すべてのものの上であり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられる神様が、聖霊によって私たちの間におられて、私たちを平和のきずなで結び合わせてくださいます。

お互いの違いに傷ついて、怒って、悲しむ時も。この教会という場所に招かれている私たちの間には、聖霊がおられます。すべてのものの上であり、すべてのものを通して働き、すべてのもの内におられる神様が、聖霊によって私たちと一緒にいてくださいます。

イエス様のお名前によって、この神様に祈って願い求めるなら、必要な助けは何でも与えてくださる。この約束に信頼して、平和のきずなで結ばれて、私たちは今日もここから一緒に歩き出してまいりましょう。

神様の愛と救い、神の国の命の希望を、すべての人に届ける役目を任されているこの群れに、神様が必要な知恵と力と、何よりも神様の愛を与えていてくださいますように。お祈りいたしましょう。